



トロント大司教区の司牧計画

トロント大司教区の信者の皆さんへ

このトロント大司教区の司牧計画の要約は、イエスの弟子としてどのように生きるようイエスが私たちに求めているかについて、祈りを込めて省みる機会を私たちにもたらしめます。

私たちの司牧計画は、私たちの活動の礎である祈りに深く根ざしています。

私たちの使命には2つの側面があります。私たちの司牧的な（内部への）使命は、敬虔なカトリック教徒の信仰体験を育み、強化することであり、イエスが「わたしの子羊を養いなさい。」と告げた、聖ペテロを模範としています。私たちの使徒的な（外部への）使命は、信者にも、信者でない人たちにも、福音を告げることです。この活動の模範は、最初に対話を通じてキリストに出会い、それからキリストを世界中に宣べ伝えた、聖パウロです。



私たちの司牧計画は、この大司教区のカトリック信者がそれぞれ、神の数多くの恵みの管理人としての私たちの役割について省み、他者と時間と才能を分かち合うことによって最も遺憾なく発揮される寛容な精神へとつながる深い内面の対話をすることを求めます。私たちは、私たちに与えられたもの全てを神と隣人への奉仕のために効果的に利用する方法を模索しながら、常に感謝の精神の中に生きます。

私たちは司牧計画全体に編みこまれることとなる主要な要素に心を配ります。私たちの仕事を効果的に行うためには、私たちは確実に、家族、特に若者に働きかけ、私たちの文化的多様性をたたえ、資源を賢く利用し、効果的にコミュニケーションをとらなければなりません。

この要約は、ぶどうの木（イエス）と枝（その民）という聖書のイメージに基づいています。5つの主要な重点事項が、私たちの旅路を導くのに役立つでしょう。

特別なオン・ラインのスペースを訪れ、私たちの旅路の「ロードマップ」の詳細をご覧ください。
www.archtoronto.org/pastoralを訪れ、司牧計画の全容と、内省のための情報源やツールにアクセスしてください。

私たちの地域社会を強固にするために皆さんが果たす役割に、私は感謝しています。私たちが共に主のぶどう畑で喜びに満ちて働くにあたり、私は祈りをささげています。

敬具

✠ *Thomas Cardinal Collins*

トーマス・カーディナル・コリンズ
トロント大司教



5つの主要な指針

教区教会生活

「信者たちはみな一緒にいて、いっさいの物を共有にし・・・」
(使徒行伝、第2章第44節)

私たちの教区教会は、キリストと出会うために私たちが互いに出会う、心の家です。私たちの計画では、私たちが225の教区教会を、毎週私たちと共にいる人たちにとっての、そしてまた何年かぶりに帰ってくる人たちにとっての、歓迎ともてなしの場にするのが求められています。私たちは毎週念入りに準備して秘跡を執り行い、全ての人々が注意深く積極的に参加することを奨励します。私たちは司祭や助祭が指揮を執るのをサポートし、助けを求められればそれに答えます。私たちは皆共にこれに関わっているのです。私たちが家庭教会である家族をサポートする宣教活動やプログラムに既に関わっている多くの教区教会をたたえることが重要です。彼らの素晴らしい手本から私たちは学ぶことができます。

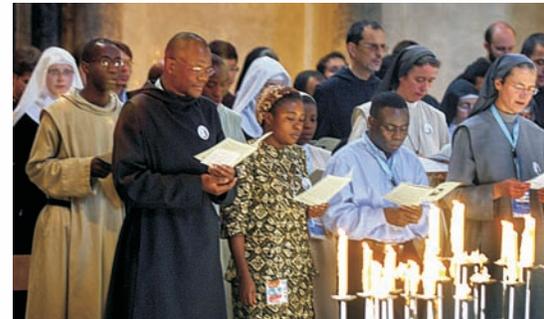
www.archtoronto.org/parishlife を訪ねて、「教区教会生活」に関連した8つの目標をご覧ください。



召命

イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。(マタイによる福音書、第4章第19～20節)

神は私たちそれぞれに、「網を投げ」て、神が私たちがどこに導いておられるのかを見出すことを求めておられます。私たちは司祭が大司教区の教区教会を導き、助祭が司祭を助け、資格のある平信徒が多様な聖職活動と繁栄する宗教コミュニティーをサポートすることを必要としています。全てのカトリック信者が、祈りと、励ましと、招きを通して、召命の代弁者となることができます。私たちの聖職者養成のための正式なプログラムを統合し、その有効性を確保しなければならないことを、私たちは認識しています。私たちはまた、私たちの大司教区で忠実に奉仕してきた司祭たちのことを忘れてはなりません。www.archtoronto.org/vocations を訪ねて、「召命」に関連する6つの目標をご覧ください。





社会への福音伝道

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコによる福音第16章第15節)

「新しい福音伝道」は、簡単に言えば、キリストへの信仰が私たちにもたらす喜びに感謝し、それを他者と分かち合うことです。私たちは信仰の聲が巷で確実に聞かれるよう、努力してゆきます。現在世界はこれまで以上に福音が宣べ伝えられることを必要としていると、私たちは信じています。実際には、私たちは学校や大学、その他の機関と共に働くことにより、私たちの公共の証言を強化し、教養豊かなカトリックの声を提供する必要があります。私たちは現代のテクノロジーを利用し、宗教的、世俗的メディアを通じ、福音を高く掲げて私たちの大司教区全体の福音伝道の力強い道具となるソーシャル・メディアやその他のツールを利用して、対話に参加します。www.archtoronto.org/evangelizeに立ち寄って、「社会への福音伝道」に関連する5つの目標をご覧ください。



正義と愛のカトリック宣教

「主なる神の霊が私に臨んだ。これは主が私に油を注いで、貧しいものに福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕らわれ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げさせるためである」(イザヤ書、第61章第1節)

私たちの司牧計画では、私たちが、不正が行われた時、多様な方法で証人となり、奉仕し、そして代弁者となることが求められています。貧しく社会から取り残された人々、キャンパスの学生たち、刑務所にいる人々、保護を求める人々、心や体を病んでいる人々へのパストラル・ケアを通じて。私たちは、私たちの教区教会や平信徒活動、カトリック団体、施設付き司祭業務、様々な司牧サービスと共に働くことで、これら全てを行うことができます。私たちは、カトリック・チャリティーとシェア・ライフを通して成し遂げられた素晴らしい成果に感謝しています。しかし私たちはもっとやらねばなりません。ミサの時、私たちは以下の言葉を聞きます。「平和の中に行きなさい。あなたの人生によって主の栄光をたたえなさい。」私たちはどうしたら私たちの地域社会の中でイエスの手となり顔となることができるでしょうか。

www.archtoronto.org/outreachを訪ねて、「正義と愛のカトリック宣教」に関連する4つの目標をご覧ください。





私たちの使命のシンボルとしての大聖堂

「そしてあなたがたも、主あって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。」（エペソ人への手紙第2章第20～22節）

大司教区の母教会である聖ミカエル大聖堂は、大司教職を通じ、信者の偉大なる守護者、大天使ミカエルの神聖な保護のもと、全ての地元のカトリック教徒を一つにします。教区教会生活のモデルとして、大聖堂はパストラル・ケアや公共の証言を率先します。大聖堂の維持・改築工事はすでに進んでいおり、これからも続きます。貧しい人々への宣教の場もあり、集いと教えの中心でもある聖ミカエル聖歌隊学校を通じ、大聖堂周辺の地域、「大聖堂地区」を集いと礼拝と宣教の場としたり、メディアとアートを通じて世界に働きかける機会を提供したりするという、わくわくするような計画もあります。文化が多様で、メディアの存在感が増す都市においては、カトリック教会は信仰と福音伝道への玄関とならねばなりません。www.archtoronto.org/cathedralを訪ねて、「私たちの使命のシンボルとしての大聖堂」に関連する4つの目標をご覧ください。



www.archtoronto.org

対話をつづけて

私たちは皆さんに私たちの司牧計画に関わっていただくことにわくわくしています。私たちのホームページを訪れて、「ロードマップ」の全容と、旅路で私たちを助けてくれる他のたくさんのツールをご覧ください。私たちの教会ではすでに素晴らしいことが起こっています。私たちはもっとできるということに気づき、その土台をたたえ、その土台の上に建て増してゆきたいと思えます。以下に皆さんが助けになれる方法を記します。

a) 地元の教区教会で何かに参加してください。主の祭壇、あるいは教区教会の評議会に奉仕をしてください。読師やコーラスのメンバーになったり、家庭を訪ねたりしてください。私たちは全てのカトリック教徒が地域参加をしてくださることを奨励します。

b) www.archtoronto.org/pastoralを訪れ、司牧計画への皆さんの感想をお寄せください。皆さんご自身の生活の中で計画がどのように展開していますか。皆さんの教区教会では何がうまくいっていますか。もっと高みを目指すにはどういった点で努力すればよいでしょう。

c) 祈り この大司教区のカトリック教徒は皆、日々ぶどう畑で働く神の民全てのために祈りをささげてください。私たちは互いに助け合いながら、地区ごとに、また大司教区として、司牧計画を精神的に支え、進むべき道の識別を助けなければなりません。私たちはこの計画を聖母マリアにゆだね、私たちがイエスの忠実な弟子であるようにとのマリアの祈りを請います。

 twitter.com/archtoronto

 facebook.com/archtoronto

トロント大司教区の司牧計画



私たちの司牧計画の中心的な施策は、地域社会への貢献と宣教という私たちの目的を促進するでしょう。これらの目的を省みるにあたり、この計画がこの大司教区の全てのカトリック教徒の生活に役立つものとなることを祈ります。



教区教会生活

「信者たちはみな一緒にいて、いっさいの物を共有にし・・・」（使徒行伝、第2章第44節）

- (i) 日曜の聖体拝領を執り行い、信者が十分に自覚を持って積極的に参加すること
- (ii) 祈りと霊的養成、強化のための好機
- (iii) 歓迎ともてなしと宣教を提供する教区教会での共同生活
- (iv) 司牧サービスの多様で協同的な役割を推し進める、教区教会での強い司牧リーダーシップ
- (v) 効果的な司牧ガバナンス 管理能力を強化し、責務を明確なものとする、教区教会内の体制と委員会
- (vi) 家庭教会である家族のサポート
- (vii) 新たな福音伝道へのコミットメント 教理教授と信仰の養成
- (viii) 使徒の使命への強固な証言 宣教活動とサービス



召命

イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。（マタイによる福音書、第4章第19～20節）

- (i) 召命を求める祈りをささげる
- (ii) 聖職と信仰生活への召命を促進する
- (iii) 教区教会や大司教区オフィスにおける平信徒による司牧的役務を奨励する
- (iv) 聖アウグスティヌス神学校での聖職への識別と養成のプログラムを統合する
- (v) 平信徒のための養成とトレーニングのプログラムを強化する
- (vi) 聖職者と平信徒のためのプログラムを通じ、司牧指導者の継続的な養成を確実なものとする

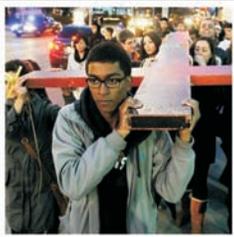


社会への福音伝道

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」（マルコによる福音第16章第15節）

- (i) カトリックの教育機関と提携し、私たちの文化における教会の知的証言を強化する
- (ii) 大司教区、教区教会、公立カトリック校、一般校に通う学生が継続的に連携する
- (iii) カトリックの教育機関と提携し、社会のあらゆる地域の人々のための教育、教理教授、信仰と神聖さの養成を促進する
- (iv) カトリックのメディアや情報機関と協力し、メディアやソーシャル・コミュニケーション・イニシアティブを通じ、文化に働きかける
- (v) 協力して、知的伝道やソーシャル・コミュニケーション、メディアに従事する人たちのための養成とトレーニングを開発する





正義と愛のカトリック宣教

「主なる神の霊が私に臨んだ。これは主が私に油を注いで、貧しいものに福音を述べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕らわれ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げさせるためである」(イザヤ書、第61章第1節)

- (i) カトリックのチャリティーを通じ、正義と愛の宣教イニシアティブを効果的なものとする
- (ii) 効果的な司牧サービスと施設付き司祭業務、パストラル・ケア活動を提供する
- (iii) 効果的な社会正義擁護を推進する
- (iv) 大司教区とさらなる協力を行い、教区教会の宣教イニシアティブを強化する



私たちの使命のシンボルとしての大聖堂

「そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。」(エペソ人への手紙第2章第20～22節)

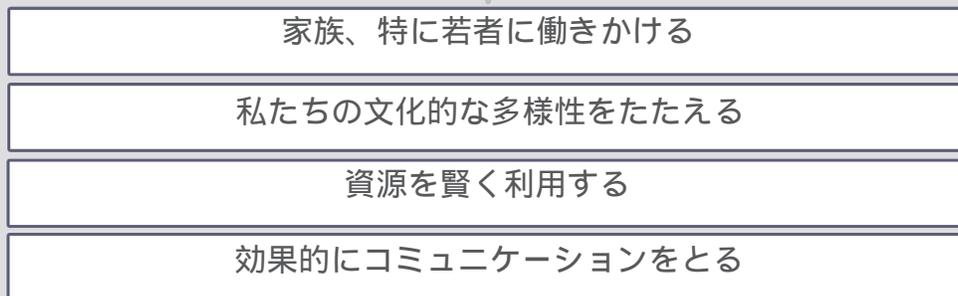
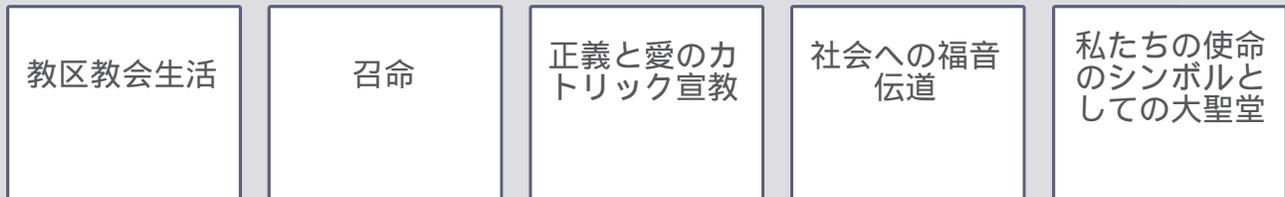
- (i) 聖ミカエル大聖堂の建築美を修復・補強する
- (ii) 大聖堂と大聖堂地区を集いと礼拝と宣教の場とする
- (iii) カトリック教育委員会と聖ミカエル聖歌隊学校と提携する
- (iv) 大聖堂と大聖堂の時計を福音伝道の中心として活性化させる



祈りに根ざして・・・

私たちの司牧的な使命 ←

→ 私たちの使徒的な使命



・・・奥深い教会管理へ向けて

